

令和3年度（第65回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

体育/保健体育分科会

体育科を軸として取り組むオリンピック・パラリンピック教育  
—教科・領域，各種教育と関連付けた指導の在り方—

令和4年2月14日  
宮古市教育委員会  
宮古市立花輪小学校  
根木地 淳

# 1. オリンピック・パラリンピック教育について

## (1). オリンピック・パラリンピック教育の目的

「オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議」がまとめた「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて—最終報告—」（2016年7月21日）には、スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの価値について、次のように記されている。

| スポーツの価値  | オリンピックの価値  | パラリンピックの価値  |
|--|--|---|
| <p>スポーツは、精神的な充足感や楽しさ・喜びをもたらし、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤。</p> <p>スポーツには、自己充実・自己変革を促す力、社会や世界を変える大きな力がある。</p> | <p>卓越 (Excellence)</p> <p>友情 (Friendship)</p> <p>敬意・尊重 (Respect)</p> | <p>勇気 (Courage)</p> <p>決意 (Determination)</p> <p>平等 (Equality)</p> <p>インスピレーション (Inspiration)</p> |

「オリンピック・パラリンピック教育」（以下「オリ・パラ教育」）は、東京大会に向けた機運醸成だけでなく、大会を契機にスポーツの意義や価値への理解を深め、平和でより良い社会の構築に向けて、変革を推進することをねらっている。

「オリ・パラ教育」は、オリンピック・パラリンピックを題材にして、

- ① スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上
- ② 障害者を含めた多くの国民の、幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画（「する」、「見る」、「支える」、「調べる」、「創る」）の定着・拡大
- ③ 児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成

を推進することを目的としている。また、オリンピック・パラリンピックに関して学ぶことを通じて国民のスポーツへの参画意欲が高まり、それがさらなる学びへとつながる好循環を創り出していくことが必要である。

## (2). 「オリ・パラ教育」の具体的内容

「オリ・パラ教育」とは、大別して、①「オリンピック・パラリンピックについての学び」と、②「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」から構成される。

### ① 「オリンピック・パラリンピックについての学び」

- ・オリンピック・パラリンピックに関する知識  
（歴史、競技種目、アスリートのパフォーマンスや努力、オリンピック精神、パラリンピックの意義、用具の工夫・開発やクラス分け等のパラリンピックの特性等）
- ・選手の体験・エピソード ・大会を支える仕組み
- ・オリンピック・パラリンピックの負の部分と改善に向けた取組  
（商業主義とIOC改革の取組、ドーピングの問題点とアンチ・ドーピングの取組等）

### ② 「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」

- ・スポーツの価値と効果～スポーツが個人や社会にもたらす効果～  
（チャレンジ・努力、ルールへの尊重、フェアプレーの精神、他者の尊重や自己実現、健康増進等）
- ・社会全体や地域、さらには国際社会の状況や課題
- ・国際言語の能力  
（オリンピック・パラリンピックへの関心やスポーツでのコミュニケーションの必要性から、英語をはじめとする国際言語の能力を高めるきっかけとなる）

### (3). 学習指導要領における「オリ・パラ」教育の位置付け

小学校

|  |
|--|
| 社会科 [6年生]<br>2 我が国の歴史上の主な事象について…次の事項を身に付けることができるよう指導する<br>サ …オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中での重要な役割を果たしてきたことを理解すること |
| 体育科「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」<br>7 オリンピック・パラリンピックに関する指導として、フェアなプレイを大切にするなど…スポーツの意義や価値等に触れることができるようにすること   |

中学校

|  |
|--|
| 保健体育科 体育分野 [第3学年] 体育理論領域<br>1 文化としてのスポーツの意義について理解すること。<br>イ オリンピックやパラリンピック及び国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること |
| 保健体育科 保健分野<br>(1) 健康な生活と疾病の予防 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康<br>ウ 薬物乱用と健康 体育分野との連携を図る観点から、フェアなプレイに反するドーピングの健康への影響についても触れるようにする  |

高等学校

|  |
|--|
| 保健体育科 体育理論領域<br>1 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解すること<br>イ 現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること |
|--|

### (4). 「オリ・パラ教育」の計画の立て方

これまでの「オリ・パラ教育」の実践の記録を見ると、「オリ・パラ教育が、児童・生徒へ大きな効果があることを実感している」という成果が挙げられている半面、「多忙な中、オリ・パラ教育の準備をすることに負担を感じる」という感想も寄せられている。

前述した「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて—最終報告—」では、「2020年をゴールではなく出発点ととらえ、(中略)大会のレガシーとして子供たちの中にしっかりと根付かせていくことも重要である」、「オリンピック、パラリンピック後においてもそのレガシーを受け継ぎ、(中略)資質・能力が子供たちに育まれることが期待される」とまとめられている。

「オリ・パラ教育」は、東京大会のためだけに行う教育ではなく、この大会をきっかけにして、継続的に行っていくものであること、「オリ・パラ教育」を通して、レガシーを受け継ぎ、子供たちの資質・能力を育てていくことが明記されている。

多忙な学校現場で「オリ・パラ教育」を推進していくには、負担感を感じる教員がいるのも事実である。負担感を減らし効果



的な実践を実現するには、「オリ・パラ教育」として新しい取組をするのではなく、既存の取組を「オリ・パラ教育」と結び付けていくという考え方が重要になってくる。

つまり、教育課程全体を見据え、教科・領域のねらいと併せて計画する、既存の活動の中から目的と合致する教育的価値を見出すなどの「カリキュラムマネジメント」の視点が必要である。

## 2. 花輪小学校における実践の基本的な考え

### (1). 内容の整理とそれぞれを関連させる計画

「オリ・パラ教育」を推進するうえで、教育課程に意図的・計画的に位置付けることを考えた。

|           | アスリートとの交流を通じた学び   | 学級・学年での学び  |
|-----------|---|--|
| 体育科の指導    | 1・2年生<br>岩手ビッグブルズチアダンス教室<br>3・4年生<br>岩手ビッグブルズ<br>バスケットボール教室 | 1・2年生「表現リズム遊び」<br>3・4年生「ゴール型ゲーム」<br>4年生「ボッチャ」<br>4・5年生「走り高跳び」  |
| 他教科・領域の指導 | 5・6年生<br>中村真衣選手講演会<br>講演テーマ「栄光へのあしあと」                       | 4年生 総合「みんなちがってみんないい」<br>5年生 総合「パラリンピックについて知ろう」<br>6年生 総合「自分の生き方を見つめよう」<br>特活「夢をかなえるための道」<br>全学年 特別の教科 道徳 |

実施する内容について、上の表のように整理し、位置付けた。指導する場面について、横軸を「体育科の指導」、「他教科・領域の指導」と分け、縦軸を「アスリートとの交流を通じた学び」、「学級・学年での学び」と分類して位置付け、特定の学年だけ行うのではなく、全校体制での実施となるよう意図して設定した。また、「アスリートとの交流を通じた学び」は、それぞれの発達段階に合わせた内容となるように計画した。

さらには、それぞれの活動を単発で終わらせるのではなく、相互に関連させて指導できるように計画した。1・2年生チアダンス教室と関連させた表現リズム遊び、4年生 総合「みんなちがってみんないい」の学習から発展したボッチャがその例である。6年生では、総合「自分の生き方を見つめよう」で興味のある職業について追究し、特活「夢をかなえるための道」の学習で、将来の夢をかなえるため、今の自分に大切なことは何かを考え、中村真衣選手の講演会で、オリンピックの考え方に触れるという教科横断的な学習となるよう計画した。

## 3. 体育科の指導と関連させた「オリ・パラ教育」

### (1). アスリートとの交流を通じた学び

#### ① 1・2年生対象 岩手ビッグブルズチアダンス教室

1・2年生は、岩手ビッグブルズチア「レッドチャーム」のメンバーと、チアダンス教室を行った。



授業の中で、子供たちは、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさ、体幹部でリズムに乗って弾む動きや、ねじる、回る、移動するなどの動きを学ぶことができた。

授業の後半には、みんなで振りをそろえて踊り、学習をまとめることができた。

## ② 3・4年生対象 岩手ビッグブルズ バasketボール教室

3・4年生は、岩手ビッグブルズの千葉慎也選手、仁平拓海選手、鈴木友貴アシスタントコーチを講師として迎え、Basketボール教室を行った。

授業の中では、Basketボールにつながる技能が向上する遊びに取り組んだ。

初めに、ボール投げ上げキャッチでBasketボールに触れ、力を効率よく伝えることができる姿勢（パワーポジション）について学んだ。その後、シュートゲームやドリブルゲームを通して、Basketボールに親しみ、基礎的な技能を身に付けることができた。

また、講師の先生方は、「積極的にコミュニケーションをとる」ことの大切さを、子供たちに繰り返し伝えていた。プロスポーツの世界で戦っている人間だからこそ伝えられる内容であり、「オリ・パラ教育」を行う価値につながるものであると考えている。



## (2). 学級・学年での学び

### ① 4・5年生「走り高跳び」の実践

4・5年生体育科の学習では、男子走り高跳びの世界記録に挑戦することを目標とした「走り高跳び」を扱った。

第1時では、世界記録2.45mを体育館の中に実際に掲示し、子供たちに紹介した。子供たちは、初めて目にする世界記録の高さに驚き、また、走り高跳びに対する興味・関心を高めていた。もちろん世界記録を跳び越すことはできないため、クラスの何人分の記録で世界記録を超えるか話し合い、3人の記録なら超せるのではないかという結論に至った。これを受けて、単元の目標は、「学級平均記録3人分で、世界記録に挑戦」になった。なお、体育科の学習指導要領に準拠し、4年生は3～5歩程度の助走、5年生は5～7歩程度の助走での実践とした。

第2時からは、走り高跳びの、助走・踏み切り・空中動作・着地の4局面に焦点をあて、運動のポイントについて考える学習を展開した。



男子走り高跳び世界記録の2.45m（1993年 ソトマヨル選手 キューバ）の実際の高さを初めて目にし、アスリートの能力の高さに驚く子供たち（左）と、アスリートの跳躍を観察する子供たち（右）。





また、授業の中では、アスリートの競技の様子を視聴し、その動きから、課題解決を図れるようにし、「オリ・パラ教育」との関連を強いものとした。

授業には、ノモグラムから導き出した個人の目標記録に挑戦できる学習カードを採用した。このことにより、身長や走力などの個人差に配慮し、一人ひとりの意欲を高めながら運動に取り組むことができるようにした。



単位時間ごとに運動のポイントを焦点化し、それぞれの課題を運動しながら解決していった。また、単位時間後半には記録に挑戦する時間を設定した。まとめの場面では、記録だけでなく、ノモグラムから計算した得点について交流し、動きの質や個人内の伸びについて触れるようにした。

単元の目標としていた「学級平均記録3人分で、世界記録に挑戦」については、4年生学級平均82.2 cm 平均×3=246.6 cm, 5年生学級平均87.6 cm 平均×3=262.8 cmと、どちらの学年も目標を達成することができた。

#### 4. 他教科・領域・各種教育と関連させた「オリ・パラ教育」

##### (1) アスリートとの交流を通じた学び

###### ① 5・6年生対象 中村真衣選手講演会

5・6年生は、オリンピックの中村真衣選手を講師として招き、「栄光へのあしあと」をテーマに講演会を行った。中村選手は、シドニーオリンピック競泳女子100m背泳ぎ2位、4×100mリレー3位の銀・銅メダリストである。

講演会に先立ち、子供たちは事前学習を行い、中村真衣選手の経歴について学び、メダリストに対しての質問を考えた。

講演の中で、中村選手は、小学生の時にバタフライから背泳ぎに転向したことや、アトランタ五輪で4位だった悔しさをバネに練習に打ち込んだことを紹介していた。また、メダリストの光り輝く部分だけでなく、アスリートの悩みや苦しみについても子供たちに伝えていた。

講演会の後半には、子供たちに向けて「オリ・パラクイズ」が出題され、クイズを通して「オリ・パラについての学び」が深められた。

中村選手は、講演会の最後に、「挨拶をすること」「笑顔でいること」「チャレンジすること」の大切さを子供たちに伝えていた。メダリストの言葉は、子供たちの心にしっかりと届いたように感じている。

「オリ・パラ教育」としてオリンピックと直接交流し、話を聞くことで、子供たちは、将来の夢や生き方についてまで考えることができた時間となった。

## (2). 学級・学年での学び

### ① 5年生 総合的な学習の時間「パラリンピックについて知ろう」

5年生は、「パラリンピックについて知ろう」という学習を行った。授業では、国際パラリンピック委員会（IPC）公認教材「I'm possible」とIPC・WOWOW共同プロジェクト「Who am I?」（動画）を資料として活用した。

授業の中で、子供たちは、パラリンピックの歴史や意義、パラアスリートの身体能力に触れ、パラリンピックについてだけでなく、目標をもち諦めず取り組む気持ち、創意工夫していくことの大切さなどについても学ぶことができた。

### ② 「特別の教科 道徳」と関連させた「オリ・パラ教育」

道徳科の学習と「オリ・パラ教育」も結び付けて構想・実践することができる。道徳科の教科書には、アスリートを題材とした教材が多数掲載されている。「新・みんなの道徳（学研）」に掲載されているアスリート関連の教材は、以下の通りである。

- |    |  |
|----|--|
| 1年 | みらいにむかって（A 希望と勇気，努力と強い意志）（錦織圭）   |
| 2年 | 美宇は，みう（A 個性の伸長）（平野美宇）  |
| 3年 | ソフトボールで金メダルを 上野由岐子（A 希望と勇気，努力と強い意志）<br>すきなことから 高橋尚子物語（A 希望と勇気，努力と強い意志）<br>パラリンピックにねがいをこめて（C 公正・公平・社会正義）（大日方邦子） |
| 4年 | レスリングの女王 吉田沙保里（A 希望と勇気，努力と強い意志）<br>なみだとえがおの「なでしこジャパン」（B 友情・信頼）   |
| 5年 | 世界に羽ばたく「航平ノート」（A 希望と勇気，努力と強い意志）  |
| 6年 | こだわりのイナバウワー（B 感謝）（羽生結弦・荒川静香）<br>栄光の架橋（A 希望と勇気，努力と強い意志）   |

（池江璃花子・桐生祥秀・黒後愛・上地結衣他）

オリンピックやパラリンピックなど、世界を舞台に活躍しているアスリート、それを支える人々の公正な態度や礼儀，連帯精神，チャレンジ精神や強い生き方，苦悩などに触れて道徳的価値の理解やそれに基づいた自己を見つめる学習が道徳科では求められている。アスリートとの交流などを通して，より実感を伴った道徳科の学びとすることが，「オリ・パラ教育」の目的を果たすことにもつながると考え，各学年で実践した。

## (3). 各種教育・行事等と関連させた学び

### ① キャリア教育・復興教育と関連させた「オリ・パラ教育」

各教科・領域だけでなく，キャリア教育や復興教育と関連させることも考えた。令和3年度学校教育指導指針には，「いわてが目指すキャリア教育のねらい」として，「児童生徒が自己の在り方生き方を考え，主体的に進路を選択し，社会人・職業人として自立するための能力を学校教育活動全体で計画的・組織的に育む」と記されている。また，「岩手の復興教育」の定義として，「郷土を愛し，その復興・発展を支える人材を育成するために，各学校の教育活動を通して，3つの教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）を育てること」と記されている。これらのねらい・定義は，「オリ・パラ教育」の価値と共通する部分があると考えられる。

キャリア教育，復興教育及び「オリ・パラ教育」のねらいを受け，6年生の学習において，将来の夢について考えた。総合的な学習の時間「自分の生き方を見つめよう」を利用して興味のある職

業について追究した6年生の子供たちは、特別活動「夢をかなえるための道」の学習で、将来の夢をかなえるため、今の自分に大切なことは何かを学び合った。

その学習を基に、オリンピックの話を聞き、その考え方に触れることで、今後の自分自身の生き方や夢についての考え方など、これまでの学習で考えてきたことをさらに深めることができた。

さらに、「オリ・パラ教育」のまとめとして、これらの活動を通して、それぞれの発達段階に応じた今現在の将来の夢について考え、表現し交流する活動を設定した。



左が、まとめとしての活動の際に使用した「花輪小学校『夢』プラン」シートである。低学年は、夢とその夢に関するイラストを、中学年は、将来の夢とそのために今できることを記すようにしている。高学年は、今の自分の夢を中心に書き、夢の実現のために必要なことをその周りに考えて書く、大谷翔平選手の「目標達成シート」のような形式をとっている。それぞれの学級で、これらのシートを記入した

後、学級内で交流し、お互いの夢を認め合うような時間を設定した。

これら2つの実践は、岩手の復興・発展を支える人材育成につながるものであると考えている。

## ② 行事等と関連させ、オリンピック・パラリンピックの機運を醸成する取組

オリンピック・パラリンピック、そして学校行事である運動会に向けての機運を醸成するために、オリンピック聖火リレーのトーチを全校で回覧した。子供たちは、その重さや質感、細部まで工夫されたデザインについて、直接手に触れながら感じる事ができた。

運動会当日は、代表児童がトーチを掲げる形で選手宣誓を行った。また、競技中にはトーチを掲示し、観客が自由に参観できるようにした。



また、校舎内にオリンピック・パラリンピックとスポーツに関する掲示コーナーを数か所設置し、資料の掲示や新聞、オリ・パラに関するクイズなどで、オリンピック・パラリンピック及びスポーツに関する情報を提供した。このことにより、「オリンピックについての学び」が進んだだけでなく、オリンピック・パラリンピックムードを高めることにもつなげることができた。







## 5. まとめ

### (1). 成果

花輪小学校の「オリ・パラ教育」の実践において、以下の5点が成果として挙げられる。

- ・ 「オリ・パラ教育」の実践に向けて、教科、領域、各種教育を関連付けて指導することを考えた結果、体育科を軸とした「カリキュラムマネジメント」を構想・実践することができた。
- ・ 「オリ・パラ教育」の内容を「アスリートとの交流を通じた学び」と「学級・学年での学び」に整理し、既存の教科・領域の指導等と関連付けて教育課程に位置付けることができた。
- ・ 全校体制で「オリ・パラ教育」に取り組むことで、低・中・高学年それぞれの発達段階に応じた「オリ・パラ教育」を実践することができた。
- ・ 「オリ・パラ教育」を、単なるアスリートとの1時間の交流として扱うのではなく、単元の中に組み込んだり、交流から学んだことや考えたことを授業の中で継続して扱ったりするなどして、有機的に関連させながら実践を進めることができた。
- ・ 子供たちが、オリンピック、アスリートと直接交流する時間を設定することができた。

特に、最後に挙げた「子供たちとオリンピック、アスリートとの交流」は、大変貴重な時間となった。夢や憧れの存在であるオリンピック、アスリートから直接話を聞き、スポーツを教わり、触れ合えるのは「オリ・パラ教育」でしかできないことである。アスリートと触れ合う機会を得られたことは、子供にとって、自己の在り方生き方、そして自身の将来について考えることにつながったと考えている。

### (2). これからの「オリ・パラ教育」の推進のために

今後「オリ・パラ教育」を継続して推進していくために、次の3点について考えていきたい。

- ・ オリンピアン・パラリンピアン・アスリートを「オリ・パラ教育」の中で活用していくためのネットワークの構築・維持
- ・ ICTを活用してのオリンピック・パラリンピアン・アスリートとの交流学习の在り方
- ・ 学校としてのパラリンピック教育の指導計画の作成と、オリンピック・パラリンピックと関連付けた体育科単元の更なる開発

東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを受け継ぎ、「オリ・パラ教育」を通して子供たちの資質・効力を育てていくために、また、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピックの価値を子供たちに伝え、「卓越・友情・敬意・尊重」、「勇気・決意・平等・インスピレーション」を身に付け、自らの人生において「自己充実・自己変革」を進めることができる人間を育成していくために、今後も研究を進めていきたい。

宮古市立花輪小学校 根木地 淳